



悠久会 埼玉支部 会報

新潟大学 工学部 同窓会

(第 21 号)

発行：悠久会 埼玉支部

発行者：支部長 田島富二夫 (子 S43)

編集者：副支部長 鯨井 和幸 (電 S47)

発行日：令和元年5月6日

悠久会 埼玉支部 総会(第25回)のご案内

拝啓 新緑の候、支部会員の皆様にはご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて元号改まって、令和元年度の悠久会埼玉支部総会を、下記のとおりご案内いたします。

当日は、母校・本部ならびに近隣支部から、多数のご来賓をお招きいたします。

ご多忙とは存じますが、皆様お誘い合わせの上、多数ご参加いただきますようお願いいたします。

尚、準備の都合上、5月25日(土)までに到着しますよう、同封の葉書にてご出欠のご連絡を頂きたくお願いいたします。

敬具

記

1、日時 令和元年6月8日(土) 11:00~16:00
(例年より、1週遅い第2週の土曜日です。)

2、会場 東晶大飯店
住所 さいたま市大宮区宮町2-28 あじせんビル3F
電話 048-644-0881
交通 大宮駅 東口より徒歩5分

3、式次第

第I部 総会 11:00~12:45
母校・本部近況紹介 他
講演会 (12:00~12:45)
「橋の魅力」
… 川田工業(株) 鋼構造事業部 技術部部長代理
栃澤 芳高 氏 (土 S59 卒)

第II部 懇親会 13:00~16:00
(… 二次会、あります。)

4、会費 8,000円 (但し、学部卒業後5年未満の方は、ご招待とさせていただきます。)



尚、返信用葉書にはメールアドレスの欄がありますが、勤務先/ご自宅とも支部からのご案内を差上げても支障の無いアドレスをお書きください。(両方でもかまいません)
ご返信の宛先は、埼玉支部・事務局 倉品 俊裕 (電子 S42) 宛てとなります。

支部年会費 納入のお願い

埼玉支部の年会費は2,000円です。支部総会案内や会報の作成・印刷他、連絡費用等の活動資金です。同封の郵便振替用紙をご利用ください(通常払込料金無料)。健全な支部活動を継続するためにも、支部会員の証としてぜひご納入いただきますようお願いいたします。

銀行振り込みの方が便利だという方は、下記口座をご利用ください。

(恐れ入りますが、振込手数料はご負担ください。)

ゆうちょ銀行 ○一九(ゼロイチキョウ)店 当座預金: 0151409 口座名: 悠久会埼玉支部

2019年悠久会埼玉支部会報発行にあたり

埼玉支部 支部長

田島 富二夫 (電子 S43)

軽暑の候、悠久会の皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

近年、気候変動の影響もあり寒暖の差が気になるこの頃でございますが健康にはくれぐれもご留意され一層のご活躍を祈念致します。

気候変動は地震災害や火山の噴火、土砂崩れ等による甚大な被害引き起こし、北海道胆振地震ではブラックアウトという全道一斉の停電が起きました。海水の高温化がいくつものスーパー台風や集中豪雨を日本列島に発生させ、被害を拡大するという事態をもたらしています。更には夏の猛暑により熊谷市で最高気温41.1度を記録するという過去に例をみない状況も起きています。

このような自然災害と同時に人災と言える危険な状況も懸念されています。世界的なテロの増加は原子力発電の防災にまで関係し、原子力規制委員会が、テロの対策が取れない原発は再稼働を認めないと警告しています。特異な価値観から人類の生活を守るという戦いでもあります。

10月に予定されている消費税10%への増税は国民の大きな関心事となり、景気動向を巡る判断も政府や財界と国民の間で乖離を生じています。大企業での内部留保が600兆円となるなか、貧困層は一層増大し、貧富の格差を広げています。経済的価値観を優先した結果といえます。

このような現在の状況は人類が自然との共生を追い求めるのではなく、人類の生活向上や自然と人類の共生を脇において、格差社会の拡大を伴う経済的利益優先の考えが社会で一番求められる価値観となっているところに問題の本質があると言えます。

人間は財界の経済的価値を生む材料(人材)でもなく、その道具でもありません。あらゆる社会的経済的活動は自然と人類の共生を求めて行われるべきであり、全ての人類の文化的生活向上に寄与するような社会経済活動が追い求められなくてはなりません。

人工知能すなわちAIの発達は大きな期待感をもってその動向が注視されています。このAIは私達人類の生活を豊かにするものでなくてはなりません。これらは全て人類の知的探求心が生んだ人類史的成果です。そのAIが経済性を優先した開発になったり、人類の存在意義を忘れ、人類がAIに支配されるようなことがあつては、人類が追及してきた科学の成果によって人類が滅び・消滅していくという、最悪の結果に行きつくという懸念も叫ばれております。そうなっては人類が発生し今日に至るまでの科学的成果が本来の目的と真逆のものになってしまうこととなります。

現在佐渡では絶滅したトキの増殖に成功し、自然と人類の本当の共生を目指して大きな成功を収めています。この事業では新潟大学も積極的に関与し、本来の自然の在り方を追求し、自然へ放鳥された沢山のトキが野生生物として大空を舞っています。このことは人类的価値観を育てる大事な活動と言えます。AIの開発や自然との共生を目指した人類の活動は、全て、自然との共存を目指した活動となることが求められます。

工学部も学科の垣根が取り払われ7学科が一つに統合されました。学生が幅広い視野を持って基礎知識と専門分野をバランスよく習得するためです。このことは新しい社会人の在り方を追求し、若い世代の学生が新しい価値観を創造していく過程であると考えます。

大切なことは限定された価値観に拘束されるのではなく、多様な価値観が相互に尊重される社会になることであり、同窓会はこのように世代の変化と共に変わりゆく価値観を正しく育て世代の継承を行っていく大切な任務を持った活動と言えるでしょう。

工学部近況報告

新潟大学 工学部長
小椋 一夫 教授



悠久会埼玉支部の皆様には益々のご繁栄、ご健勝のこととお喜び申し上げます。
日頃より悠久会の皆様には、新潟大学工学部に対するご理解とご協力を頂いております。
特に、ここ数年は国立か私立かを問わず大学は大変厳しい状況に置かれております。
このような中、悠久会からの温かいご支援は本当にありがたく、この場を借りまして、あらためて御礼申し上げます。

時代は「超スマート社会」に向けて大きく変化する中、本工学部は平成29年度の改組により、伝統的な工学を再編した工学系4分野と新たに設けた融合領域分野を加えて定員530名の1学科体制としております。

18歳人口の減少に伴い地方大学には非常に厳しい時代となっておりますが、今年度も定員を確保して548名の新入生を迎えることができホッとしております。

1年次では工学全体を俯瞰した後、分野共通科目を履修し、段階を踏みながら専門性を高めていき、2年次以降の7つの工学系プログラムと2つの文理融合型プログラムの何れかで専門分野を学びます。

基礎科目と専門分野の知識を修得しながら、応用力を養い「学ぶ力」と「つくる力」とのバランスのとれた総合力である「工学力（こうがくりょく）」を修得します。

また、工学部工学力教育センターが中心となって開発してきた新たな実践的課題解決型の融合的教育である「ドミトリー型教育」の更なる充実を図っております。

そこでは、「学生寮」に先輩・後輩が集うようにチームを結成し、研究活動を行うスマート・ドミトリー・クラスによる「出る杭を伸ばす工学教育」を展開しています。

この実践的課題解決型教育におけるインターンシップや、100人ネットワークなどの活動では、皆様から多大なるご協力を頂いております。
心より感謝申し上げます。

工学教育の国際性を高めることは喫緊の課題であり、本工学部は大学の世界展開力強化事業「メコン諸国と連携した地域協働・ドミトリー型融合教育による理工系人材育成」に取り組んでおります。メコン諸国の著名4大学の学生と本学学生でチームを結成し、地域企業と連携した「ドミトリー型教育」を実施しています。

教育のグローバル化では、必然的に「ダイバーシティ」が求められます。
これまでの工学部は男子が多く女子には敬遠される傾向があったようで、この問題にも積極的に取り組んで本工学部の魅力を高めていきたいと考えています。

学部改組後3年目に入りました。
学生諸君は活発であり、益々活気あふれる教育現場となっております。
新しい工学部は、新潟地域と連携した特徴あるグローバル教育を取り入れながら、日本海側の工学系高等教育の中心的役割を果たしていく所存です。

皆様の暖かいご支援をお願い致します。

半世紀に渡るサラリーマン生活を振り返って

埼玉支部

白井 啓一（機械 S46）

昭和46年に当時の三菱金属鋳業社に入社して以来、今年の3月末に三菱マテリアル社（以降三菱マ社）顧問を最後に退職するまでの48年間、およそ半世紀に渡るサラリーマン生活を振り返ってみたい。

私の会社勤務は大きく分けて、次の4つの時期に分類されます。

- ① 昭和46年～平成5年 産業機械設計製造（兵庫県の山奥にある生野製作所）
- ② 平成5年～平成13年 三菱マ本社（長岡の玉川マシナリー社勤務含む）
- ③ 平成14年～平成28年 アルミ缶製造事業（三菱マ社、ユニバーサル製缶社含む）
- ④ 平成28年～平成31年 社員教育関係（三菱マ社「ものづくり・ひとづくり大学」）

まず①期22年間ですが、主に社内の他部門の設備を設計・製造する仕事をしました。主力製品はアルミ缶製造設備と半導体製造装置ですが、その時は30年後に自身がアルミ缶工場で使う立場になろうとは思いませんでした。

しかしこの場所での機械設計と製造の経験が最後の④期まで活かされる事となります。

社内の設備投資計画頼みの事業は、独立採算での事業継続は難しく、私の在任中は何とか利益も出せていましたが、離任7年後の平成12年に閉所となりました。

当時三菱マ社の関係会社であった長岡の玉川マシナリー社にその事業は引き継がれ、長岡出身の私は浅からぬ因縁を感じさせられました。

②期9年間の本社勤務後半にこの玉川マシナリー社に私も行き、再び機械設計・製造の仕事に従事しました。実家のある長岡に30年後に戻った訳です。

同居は出来ませんでしたが、お陰様で少しは年老いた両親の手助けも出来ました。

この会社は私の離任後再編され、三菱マ社の関係会社である三菱マテリアルテクノ社の長岡製作所となって現存しております。

③期14年間の内最初の4年間は三菱マ社のアルミ缶事業に、残りの10年間はこの事業が再編分社化されたユニバーサル製缶社に勤務しました。

①期に記載の様に自分で作った設備の内、かなりの機械が部品は適宜交換されたものの、まだ現役で24時間フル稼働している事に感動しました。

アルミ缶工場は、正月の5日間と年に1回2週間の年次メンテナンスで休止しますが、それ以外は土日・5月の連休・お盆も24時間フル稼働で止まりません。

従って設備の故障停止は業績への影響が大きく保全の在り方が重要で、設備を作る側から使う側に来て、初めてその切実さを理解出来た次第です。

又生産のみならず全数検査も自動化し、人には見えない印字により年間50億缶以上販売されても、全数トレーサビリティがあります。

それは食品安全規格が適用される為で、顧客からのクレームもPPB（10億分の1）単位で抑える管理が要求されます。品質維持の膨大なコストは今も最大の課題です。

④期最後の3年間は三菱マ社に再度雇用され若手社員を対象とする「ものづくり・ひとづくり大学」の学長として就学率の向上と教育カリキュラムの編集に取り組みました。

特にものづくりの基礎知識習得を図る為、3割を超える事務系社員を意識しながら「品質管理」「技術経営」等の講座に注力しました。

①～③期で得られた知見を題材に自らも講演し、④期は入社以来半世紀に渡り「ものづくり」に取り組んで来た私のサラリーマン生活の集大成であった事は幸いでした。

以上

「ふれあい・さいたま ウォーキング」活動報告

埼玉支部 副支部長

出井 道夫 (機 S52)

埼玉支部の恒例行事「ふれあい・さいたまウォーキング」の活動を報告いたします。歩いて訪ねる埼玉再発見の旅です。平成30年度は、4回のウォーキングを行いました。

第59回 見沼代用水から通船堀を訪ねる旅

期日：平成30年6月23日

「見沼通船堀」は、悠久会埼玉支部HPのシンボルです。東川口駅スタートで、見沼代用水に沿う緑のヘルシーロードから、通船堀を歩きました。



東川口駅からスタート

第60回 高尾山を訪ねる旅

期日：平成30年9月29日

60回の記念に、東京の高尾山を訪ねました。あいにく小雨の天気でしたので、早目に下山しました。そのおかげで、慰労会は二次会まで続きました。



高尾山 山頂

第61回 岩殿観音から高坂丘陵を訪ねる旅

期日：平成30年11月24日

岩殿観音は、坂東三十三観音の十番札所です。崖の端に建てられた山寺の雰囲気があります。丘陵地帯のもみじが、きれいに色づいていました。



物見山公園

第62回 岩槻の歴史と桜を訪ねる旅

期日：平成31年3月30日

岩槻の史跡を巡ってから、岩槻城址公園で桜を楽しみました。満開には少し早かったですが、花冷えの天気でしたので、体の中から暖めました。



岩槻城址公園

埼玉支部ではこれからも季節毎に、「ふれあい・さいたまウォーキング」を計画します。興味のある方・参加希望される方には、案内をEメールでお送りしますので、お気軽に下記アドレスにご連絡下さい。県外支部や他学部からの参加も大歓迎です。同窓生と気楽に歩いてみませんか。

連絡先： 出井 (機 52) kwgid@jcom.zaq.ne.jp

***** 支部・編集子からのお知らせ *****

※ 今年の全国総会は、水上（群馬）です。

『ユネスコエコパークと湯けむりの町みなかみ総会』

…6月29日(土)～6月30日(日)

講演会及び総会・懇親会とも 「源泉湯の宿 松乃井ホテル」

詳しくは、悠久会時報・第135号をご覧ください。

※ 来年以降の全国総会開催地は、以下の予定です。

・令和2年 長野 ・令和3年 埼玉 ・令和4年 大阪/兵庫

・令和5年 長岡(100周年) ・令和6年 神奈川 ・令和7年 東海

… いよいよ、埼玉での3回目の全国総会が2年後に迫ってきました。

今年から、いよいよ本格的な検討が始まります。支部会員各位のお知恵を拝借したく、ご協力・お力添えをお願いいたします。

※ 工学部100周年記念行事の取組みについて(その4) 埼玉支部 副支部長 大友 眞(機S52)

去る平成31年3月25日(月)に、第8回100周年記念行事実施検討委員会が開かれましたので、内容を紹介します。先ず、記念募金実行委員会会長人事ですが、内定していた内田力悠久会相談役が固辞されたことから、会長を本合邦彦悠久会理事長に変更した新たな委員のリストが提示され、議論がなされました。その結果、会長については原案通り承認されました。

記念事業実施内容については、これまでの議論を踏まえ、募金期間は3年、事業内容は下記の通り確定しました。

- (1) 教育・研究支援基金の創設
- (2) 新潟大学工学部創立100周年記念式典の開催
- (3) 新潟大学工学部創立100周年記念誌の発行
- (4) 工学部周辺の環境整備

100周年記念行事実施検討委員会は、これをもって解散し、今後の具体的な事業実施に関しては100周年記念事業実行委員会に委ねることが確認されました。

第1回目の実行委員会は、2019年6月29日(土) (全国総会開催時) に行う事となりました。

※ 昨年度（第24回）埼玉支部総会 集合写真です。



6月8日(土) AM11:00 「東晶大飯店」で、お待ちしております。